

## 外れた教えに気をつけてください

マルコ12:38~44 / 李正雨師

今日の福音書は大きく二つに分かれています。律法学者に気をつけなさいというイエスさまの教えと、貧しいやもめの献金に対するほめ言葉です。この二つの言葉はまったく違って見えるかもしれませんが、実は同じ文脈の言葉です。外れた教えに気をつけなさいということと、その外れた教えがどのような結果をもたらしたのかについての言葉です。イエスさまの時代のイスラエルは、政治と経済と宗教が混在していました。その中で経済的な仕事としては、農業、畜産業、漁業などの、一次的な産業が主でしたが、エルサレムでは、神殿に関連することが主な仕事でした。神殿は様々なことを派生させていました。いけにえのため、必要な捧げ物を売るだけでなく、神殿の中でのみ通じていたお金を両替すること、神殿管理に必要な品物の調達、税徴収、手工業など、いろいろなことが神殿と関連していました。それだけでなく、神殿のあるエルサレムが首都の役割を果たしていたので、神殿を中心にして様々な商業が発達していました。そしてこれらの多くは、宗教指導者たちと関連していました。宗教と経済が癒着するしかない状況だったということです。

政治もこれと同じでした。政治の基準となるものは、法律ですね。王や管理などの力を持っている人々も、この法律の中にいるからです。今、私たちが暮らしているここも、基本的な法律として憲法というものがあります。そしてこの憲法は、宗教の法とは全然関係ありません。宗教の法は、神の教えという特別なものがあるからです。しかし、イエスさまの時代のイスラエルの法律は律法であり、この法律は、非常に宗教的な法律でした。もちろんローマという帝国の法律がありましたが、民法のようなものは、ほとんど各民族に任せる形でした。それで福音書に登場している律法学者たちは、大きな力を持っていました。彼らは法律を解釈して執行することができる人でした。

そしてイスラエルには、サンヘドリンという最高裁判部がありました。イエスさまの死も、このサンヘドリンの決定によるものでした。イエスさまは、この決定によってローマに引き渡され、殺されました。このサンヘドリンは、3つの代表者たちが導いていました。各部族の長老たち、律法学者たちとファリサイ派の人々、祭司長たちとサドカイ派の人々で構成されていました。彼らはイスラエルで起きていることについて決定権を持っており、民族のさまざまなことを扱う、一種の国会の役割も果たしました。つまり、法律を扱う律法学者だけでなく、神殿で働いていた祭司長たちも、政治に加わっていたということです。政治と経済と宗教が癒着している形が、イエスさまの時代、イスラエルの姿でした。いろいろな意味で、民の生活が平安ではなかったということです。今日の福音書は、この状況を念頭に置いて読まなければなりません。そうでなければ、今日の福音書に隠されている真実を見つけることができないと思います。まず38~39節の言葉です。「イエスは教えの中でこう言われた。『律法学者に気をつけなさい。彼らは、長い衣をまとって歩き回ることや広場で挨拶されること、会堂では上席、宴会では上座に座ることを望み、』」

イエスさまはご自分に従っている人々に、律法学者に気をつけなさいと言われ、彼らの姿と行動を指摘なさいます。ここで長い衣とは、多分彼らが会堂や神殿で着ていた衣だと思います。古代社会から服装というものは、身分や仕事を示してきました。現代にはその意味がだいぶ消え去りましたが、それでも、特別な仕事をしている人々は、その仕事分かる制服や特別な服を着ています。イエスさまの時代にも、服装は自分たちの身分を示すものの一つでした。ところが、法律の力を持っている律法学者たちが、会堂や神殿で着ている服を着て、道を通っていたということは、人々に支えられるためだったと見るしかありません。彼らはその服を着て、広場で挨拶され、会堂や宴会では上席に座りました。自分の身分を利用して人々に尊重を求めたのです。これは神さまの教えに反することであり、律法を研究する者の姿勢ではありませんでした。そして彼らは、律法を悪用することさえしました。今日の福音書40節の言葉です。「また、やもめの家を食物にし、見せかけの長い祈りをする。このような者たちは、人一倍厳しい裁きを受けることになる。」

律法学者たちは、見た目では人々を迷わせ、知識によって人々の財産を奪いました。それもやもめの家を食物にしたということです。律法によると、やもめは寄留者とみなしごと共に保護されるべき人々です。それにもかかわらず、律法学者たちは、やもめの家までも食物にしたと指摘なさいます。すべての律法学者がそうしたのではないでしょう。しかし、イエスさまがこう言われるほど、当時の律法学者たちに対する一般的な

認識は良くなかったと思います。表では自分の身分を示し、心では生活保護者の財産を狙っている彼らに、イエスさまは厳しい裁きを受けることになると思われます。

私は律法学者の姿を見て、なぜ彼らがこのようなイメージになったのかを考えてみました。彼らのこのようなイメージが、一朝一夕にして決まったわけではなかったでしょう。何年も何十年も繰り返されてきた彼らの行動によって、このようなイメージになったのではないのでしょうか。彼ら自身は、このような律法学者たちの姿は、当たり前だと思ったのかもしれませんが。人々に尊重され、法律についてよく分からない人々に取り巻いて財産を奪うことは、当時の律法学者の姿だったのかもしれませんが。明らかに間違った姿ですが、多くの律法学者がそのようにしていたので、罪の意識なしにそうしたのかもしれませんが。そうすると、彼らは見かけを飾って尊重されることを望む人、やもめの財産さえも食べ物にする人になったのだと思います。個人の誤った習慣や固い考えも、簡単に直すことは難しいのです。まして多数の人々の固まった習慣と考えは、さらに難しいでしょう。私たちも同じだと思います。私たちに律法学者たちのような姿はないのか、習慣になって当然だと思っている悪いものはないのか、自分のことを一度振り返る必要があると思います。

当時のこのような姿と状況は、律法学者だけには限りませんでした。神殿でもこれらのことが蔓延していました。そのうちの代表的なものが賽銭箱又は献金箱に献金を入れることでした。41節を見ましょう。「イエスは賽銭箱の向かいに座って、群衆がそれに金を入れる様子を見ておられた。大勢の金持ちがたくさん入れていた。」この言葉でイエスさまの姿を一度想像してみてください。人々が献金を入れることを献金箱の前で見られるのです。このお姿が何か可笑しくありませんか。もし皆様が献金箱にお金を入れる際に、私がお前で皆様を見ていると想像してみてください。本当にひどいことですね。ところが、今日の福音書でのイエスさまは、そんなひどいことをしておられます。多分理由があるのでしょう。

ミシュナ(Mishna)という言い伝えの記録によると、この賽銭箱はトランペットのような容器13個が設置されていたそうです。この容器のいくつかは、特定されたことだけに使用され、残りの容器は「自発的な献金」を入れることに使用されました。おそらくこのやもめは、この自発的な献金の容器に献金を入れたのでしょう。当時のお金は、ギリシャ語で「オレイカルコス」と言いますが、このお金は銅や真鍮などによって作られたものを意味します。それで、献金箱にお金を入れるときは、お金が落ちる音がしました。金持ちの場合は、たくさんのお金を献金箱に入れたので、お金が落ちる音が長く聞こえたでしょう。逆に貧しい人の場合は、チャリンと短く聞こえたはずです。つまり、神殿の人々は、献金する姿を見なくても、音だけでもどれくらいを献金したのかが分かったでしょう。私が先日の説教の時、ユダヤ人の考え方の中で「富は神さまの祝福だ」という考え方があると申し上げました。人々はお金持ちの献金の音を聞いて「この人は神さまから祝福された人だ」と思ったでしょう。しかし、イエスさまはお金持ちをほめられませんでした。わずかにレプトン銅貨二枚をささげたやもめをほめられました。43節でイエスさまはこのようにおっしゃいます。「はっきり言っておく。この貧しいやもめは、賽銭箱に入れている人の中で、だれよりもたくさん入れた。」そして44節で、イエスさまはこのやもめの献金が彼女の生活費の全部であるということを言われます。

私はこの言葉がやもめをほめられたことと同時に、当時の献金の問題を指摘なされたことだと思います。いくらをささげたかと神さまの祝福は関係のないものですが、人々はそう受け入れませんでした。また、宗教指導者たちは、保護しなければならないやもめの生活費までも、献金するように教えました。そのように受けた献金によって、神殿はさらに華やかになり、祭司たちは自分の腹を肥やしました。これも、当時には当然なことだと思われていた考え方だったのかもしれませんが。しかし、確かに、これは神さまの教えからずれたこと、外れた教えでした。律法学者たちはやもめの家を食べ物にし、祭司長たちは貧しいやもめの生活費までも献金するようにさせました。そして、このような彼らが政治をし、民たちを治めました。

来週の福音書であるマルコによる福音書13章1節では、弟子の一人がイエスさまに「なんとすばらしい建物でしょう」と言います。すると2節でイエスさまは「これらの大きな建物を見ているか。一つの石もここで崩されずに他の石の上に残ることはない」と言われます。外れた教え、誤った習慣、固まった考え方は崩れなければならないものです。それが通じている社会であっても、間違ったことは正しくすべきことです。それがイエスさまに従っている人々に与えられた宿題であり、私たちがしなければならないことだと思います。外れた教えに気をつけてください。貧しい人々を助け、彼らのために祈ってください。神さまが私たちに正しい考えを与えてくださいますように。聖霊が皆様と共におられますように、主の御名によって祈ります。アーメン